

KODAK Gray Scale

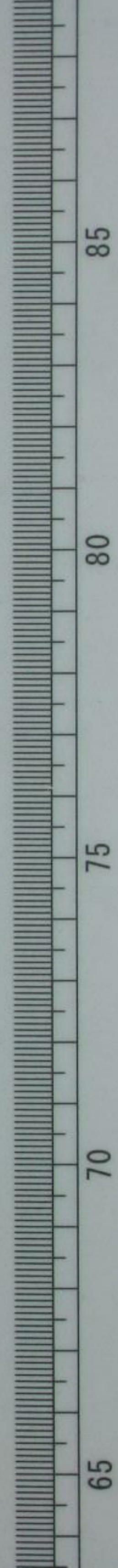
KODAK  
LICENSED PRODUCT

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



復谷點竄指南錄  
二編  
中

222  
720  
5



# 玉積通考

蘭碗先生著

全三卷

球類内外弧准内外弧方臺立方長立圓錐立圓側圓の諸積小  
 五もまて悉く其起原を詳録し術も亦捷徑あり也の算書なり  
 一二を裁るといへども或ハ米と擧て後城残一右を顯して丸を  
 隠し今一度世書で見らるればハいふ初学もといへども玉積か  
 白日明鏡ハいふべきなり

# 開式新法

川井久徳著  
 坂部廣胖閱

全三卷

凡算術平方式まで八顯盤術を以て開之立方式以下亦ハ皆算術  
 を以て開之既ハ煩悩を患ふ先哲發明の者といへども僅小その  
 一二を以て悉く記さる能はざらん今此書平方式以上教十百算術  
 いへども皆顯盤術を以て開事と爲り上巻ハ一とく術例を擧げ  
 下巻ハ実問を設け附録ハ圓周孤背方斜三角等の秘術と題し  
 實小千古の算と教せざる所あり堂々たる算術ハ有るべきの書なり

# 算法點竄指南錄卷之五

武江

阪部勇九衛門廣胖 著  
 馬場金之丞正督 訂

## 第一術解

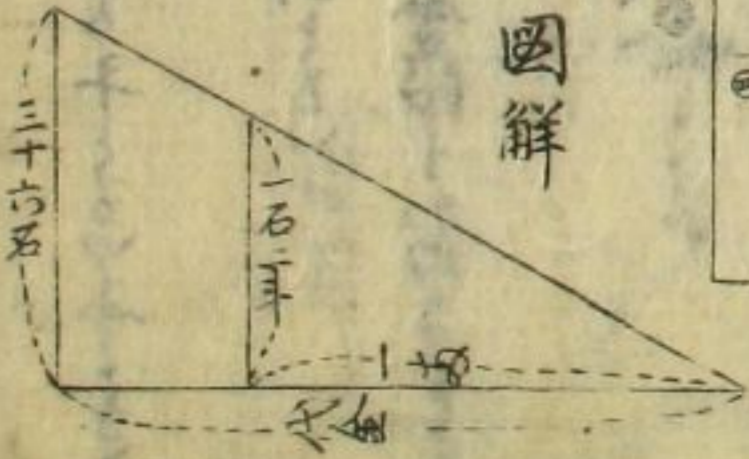
比例を以て (二) (三) 相乘 者 也

比	一石二斗
例	一石
式	有米
	代金

け者といふも也といふまはハ上ある算木の例  
 有米三十六石と令一石と合せて一石お場一石  
 二斗と代金と合せて一石と合せて一石と合せて一石  
 けれを者といふも也といふまはハ上ある算木の例

圖解

一石二斗 者 也  
 本術有米一石とかけべき理なれども一石ハ一の位なり  
 一石二斗ハ二の位なりと同一の位ハ一石と合せて一石  
 なるなり若又同一一の位と二の位と合せて一石と合せて一石  
 なるなり一石ハ一の位一石二斗ハ二の位



〇又云あるものからよよ及むる下は不ありへ  
 位違ふも必わけべり割るものも是れなり  
 〇此比例を唐人の異乗同除といふ和俗の相場割といひ亦矩割といひ  
 〇比例式の図解の一方あるを御意ハ明りありといふも學者會得しおぬること  
 〇此の図をさうと煩しと云ふはいふべし其法をあること

是故本術有米三十を置相場二石五分を割と成り代金と成り

### 第二術解

比例式を以て (一) (二) (三) 相乗 者 也

(一) を以て是を割る 者 也

是故本術米七升を置銀二匁五分を割と成り代銀と成り

式例比

①	二升六分	二匁
②	二升七分	代銀

### 第三術解

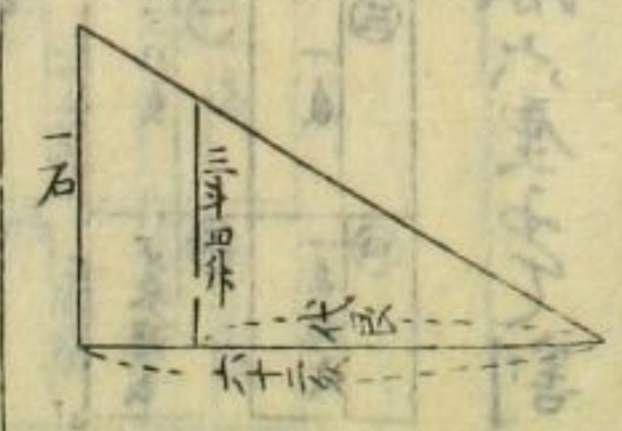
比例式を以て (一) (二) (三) 相乗 者 也

(一) を以て是を除く 者 也

是故本術米四升を置相場二匁五分を割と成り代銀と成り

式例比

①	一石	六十二匁
②	三升四分	代銀



### 第四術解

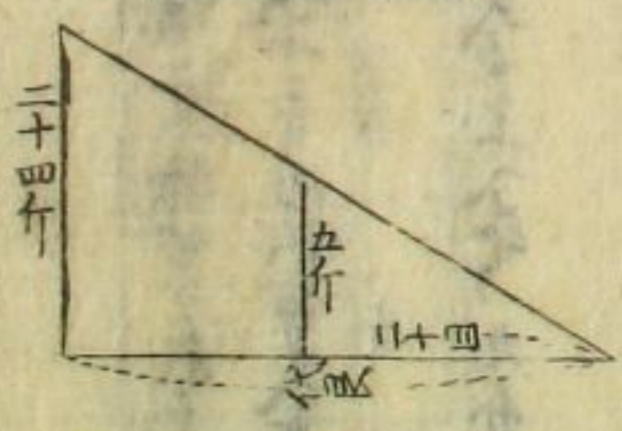
比例式を以て (一) (二) (三) 相乗 者 也

(一) を以て是を割る 者 也

是故本術茶二十斤を置銀目二十を掛と成り代銀と成り

式例比

①	五斤	二十目
②	二十四斤	代銀



### 第五術解

比例式を以て (一) (二) (三) 相乗 (一) を以て割る 者 也

是故本術米九石を置後ハ云金五<sup>五</sup>を掛<sup>四八ヶ</sup>  
前ハ云金五<sup>十二</sup>を以割<sup>四ヶ</sup>合五<sup>五</sup>の米と<sup>と</sup>

比	① 十二	② 九石六斗
例	③ 五	④ 米

### 第六術解

○錢ハ少シクモ百文ハ付四文ヅクの割合ニ目と引調錢ハ一ツ後乗除せられ  
 ナク<sup>ス</sup>目ノ<sup>ス</sup>引と<sup>ス</sup>思<sup>ハ</sup>れ<sup>ル</sup>登<sup>ル</sup>々<sup>ニ</sup>またハ百文を調錢ハ一ツ百文を  
 〇若百文より下の増減ある時ハ其増減ハ其まゝ<sup>ニ</sup>百文の上ハ半<sup>ニ</sup>九分  
 六厘と<sup>ス</sup>カ<sup>ス</sup>ベ<sup>シ</sup>  
 〇又云乗除して出<sup>ル</sup>れ<sup>ル</sup>残<sup>リ</sup>ハ<sup>ハ</sup>少<sup>シ</sup>ク<sup>モ</sup>調錢少<sup>ク</sup>出<sup>ル</sup>由<sup>ニ</sup>何<sup>レ</sup>証<sup>アリ</sup>と<sup>ス</sup>百文乃  
 位<sup>ニ</sup>まで<sup>ニ</sup>定法九分六厘と<sup>ス</sup>割<sup>ベ</sup>シ<sup>ト</sup>それ<sup>ヲ</sup>通用<sup>ノ</sup>残<sup>リ</sup>と<sup>ス</sup>カ<sup>ス</sup>ベ<sup>シ</sup>

比例を以て ① ② ③ 相乗 ④ を以割 八<sup>八</sup> 一<sup>一</sup> 調錢 也

比	① 八	② 一	③ 八	④ 一
例	① 一	② 一	③ 一	④ 一

是故本術錢一貫文を置定法九分六厘を掛<sup>九六ヶ</sup>  
前ハ云銀八<sup>八</sup>と<sup>ス</sup>割<sup>一<sup>一</sup>ニ<sup>二</sup>ヶ</sup>百<sup>百</sup>の位<sup>位</sup>斗<sup>斗</sup>定法九分六厘を以割

一<sup>一</sup>二<sup>二</sup>四<sup>四</sup>ヶ<sup>ヶ</sup> 銀一<sup>一</sup>貫<sup>貫</sup>の<sup>の</sup>錢<sup>錢</sup>と<sup>と</sup>ス

### 第七術解

比例を以て ① ② ③ 相乗 ④ を以割 四十<sup>四十</sup> 一<sup>一</sup> 表數 〇  
是故本術炭八十<sup>八十</sup>俵を置后云令<sup>二十</sup>五<sup>五</sup>と<sup>ス</sup>掛<sup>二<sup>二</sup>〇<sup>〇</sup></sup> 向  
所<sup>所</sup>の<sup>の</sup>俵<sup>俵</sup>數<sup>數</sup>と<sup>と</sup>ス

比	① 四十	② 一	③ 四十	④ 一
例	① 一	② 一	③ 一	④ 一

### 第八術解

比例を以て ① ② ③ 相乗 ④ を以割 一<sup>一</sup> 五<sup>五</sup> 八<sup>八</sup> 代令 〇  
是故本術有銀五十<sup>五十</sup>兩を置銀相場時を以割  
一<sup>一</sup>四<sup>四</sup>二<sup>二</sup>五<sup>五</sup> 代金と<sup>と</sup>ス

比	① 一	② 五	③ 八	④ 一
例	① 一	② 一	③ 一	④ 一

### 第九術解

是六錢の解の如く有錢も相場の時も百文以上ハ九分六厘と<sup>ス</sup>カ<sup>ス</sup>ベ<sup>シ</sup>

中して乗除とては理るれども残相場をのれり百文以下の相場はさき由へ本  
法より六分一に差をれ由へ及費して有残の相場はよりしを九分六厘として  
割のてらむ九十六文割の残として本術乗除とるし

比例をうて(二)(三)相乗(一)を以割 有残ハ 代令

是故本術有錢 百九十二貫 六百二十五文 を並十文以下定法九分

六厘を以割 百九十二貫 六百二十五文 相場 六貫七 五ヶ を以割 二八ヶ七 五ヶ 代令とて

令一丈ハ 永き貫文

令三分式分ハ 永八百七十五文

令二分ハ 永七百五十文

令式分式分ハ 永六百二十五文

令即分ハ 永五百文

令五分式分ハ 永二百七十五文

令一分ハ 永二百五十文

令式分ハ 永百二十五文

永とてハ令の若名と名けり一板令合ふたうがれ殆ど永不根相場を  
かつねを根とちるし

たとへば永き貫を百七十五文を是と合ふと合ふたうがら分を根とて  
相場と同財ハ永き貫を百七十五文と並内永き貫を百文を合き或分にて  
是と名けり永七十二文あり根相場六十目を掛り又二下取とてはれり

第十術解

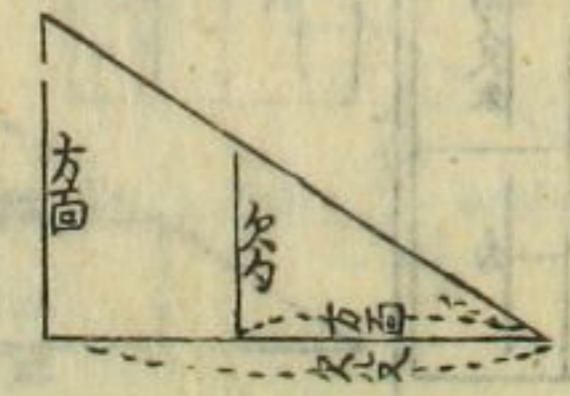
比例をうて(二)(三)相乗(一)を以割 面巾ハ 欠文

是故本術方面柱を並是と掛

合せ 一四ヶ 欠勾を以割 一六ヶ 欠股

とて

式例比		
(一)	欠勾	勾
(二)	面	欠文
(三)	欠文	面
(四)	欠文	欠文



第十一術解

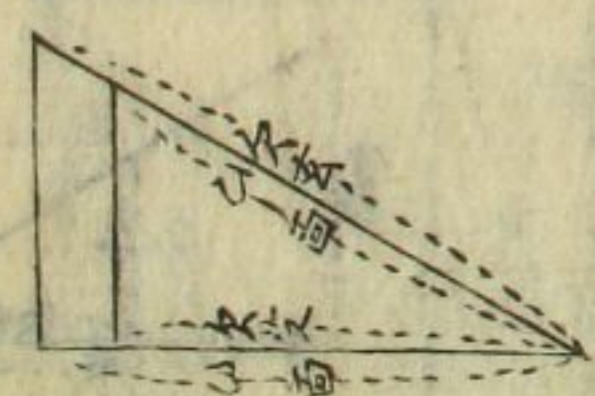
比例をうて(二)(三)相乗(一)を以割 面巾ハ 欠文

是故本術菱面柱を並是と掛

合せ 四〇ヶ 欠股 一六ヶ を以割 二五ヶ

欠弦とて

式例比		
(一)	欠文	欠文
(二)	面	欠文
(三)	欠文	面
(四)	欠文	欠文



第十二術解

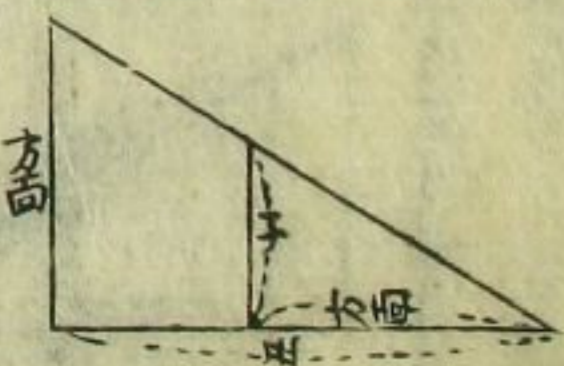
九百四十五 卷之五

比例をとって(三)(三)相乗(一)を以割 丑(一)子(一)

是故本術方面十二を益是を掛  
ありせとちり 丑十六を以割 九ケと子  
とと

式例比

(三) 方面	(一) 丑	父
(四) 子	(二) 方面	勾



### 十三術解

勾を益内平とて(一) (一) 相乗(一)を以割 父(一) 長(一)

是故本術勾九を益内平三を減余六  
股を掛 七二ケ 勾を以割 八ケと 長とと

式例比

(三) 父	(一) 勾
(四) 長	(二) 父



### 十四術解

比例乗除の法とて(一) (一) 相乗(一)を以割 父(一) 長(一)

比例をとって(一) (一) 相乗(一)を以割 父(一) 長(一)

是故本術勾を益股とて(一) (一) 相乗(一)を以割 父(一) 長(一)

### 十五術解

比例をとって(一) (一) 相乗(一)を以割 父(一) 長(一)

是故本術勾を益股とて(一) (一) 相乗(一)を以割 父(一) 長(一)

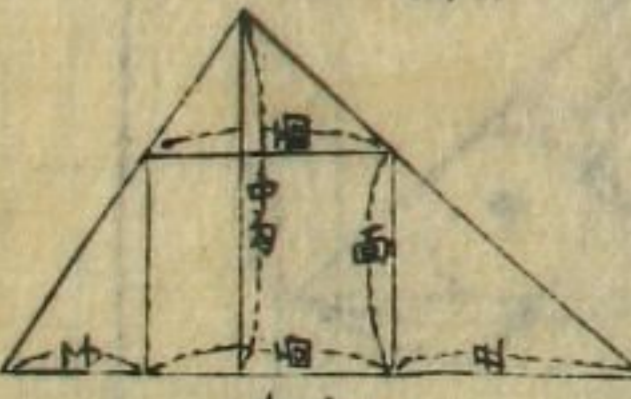
### 十六術解

比例をとって(一) (一) 相乗(一)を以割 父(一) 長(一)

是故本術大斜を益方面を掛 一三ケ 実とと

式例比

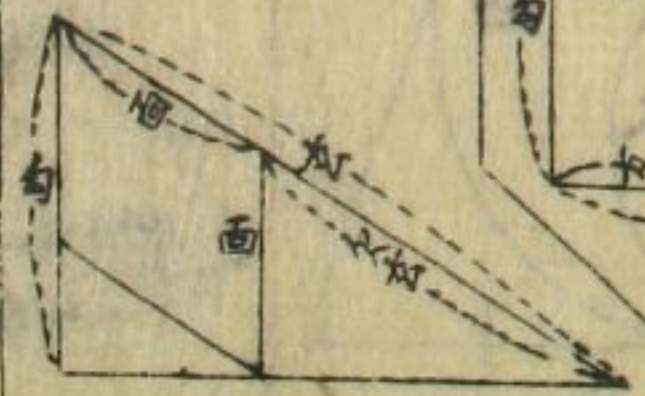
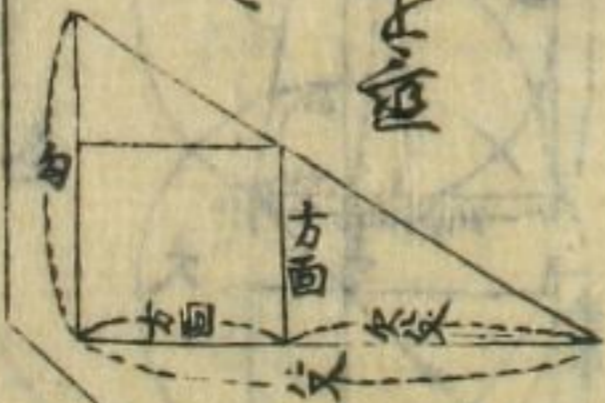
大斜	子丑未
中勾	方面



大斜

式例比

方面	勾
方面	勾



大斜と方面の差 即子五ケと四ケを以割る 中勾とて

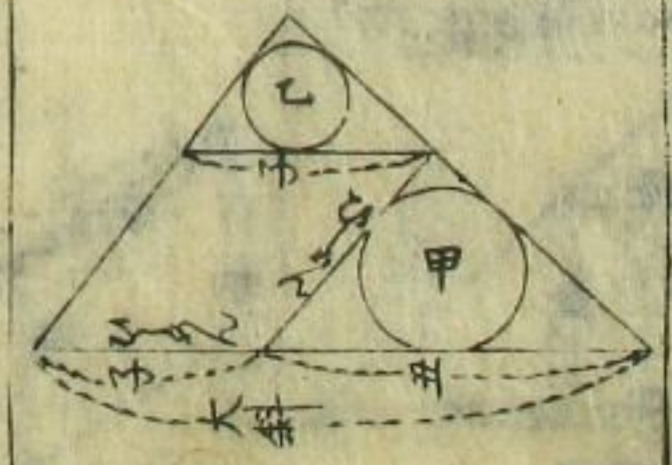
### 十七術解

本 ハ 子五木 ニ

比例不仍 子五木ハ 面 ハ 子五木

比例式	
甲	子五木
乙	面

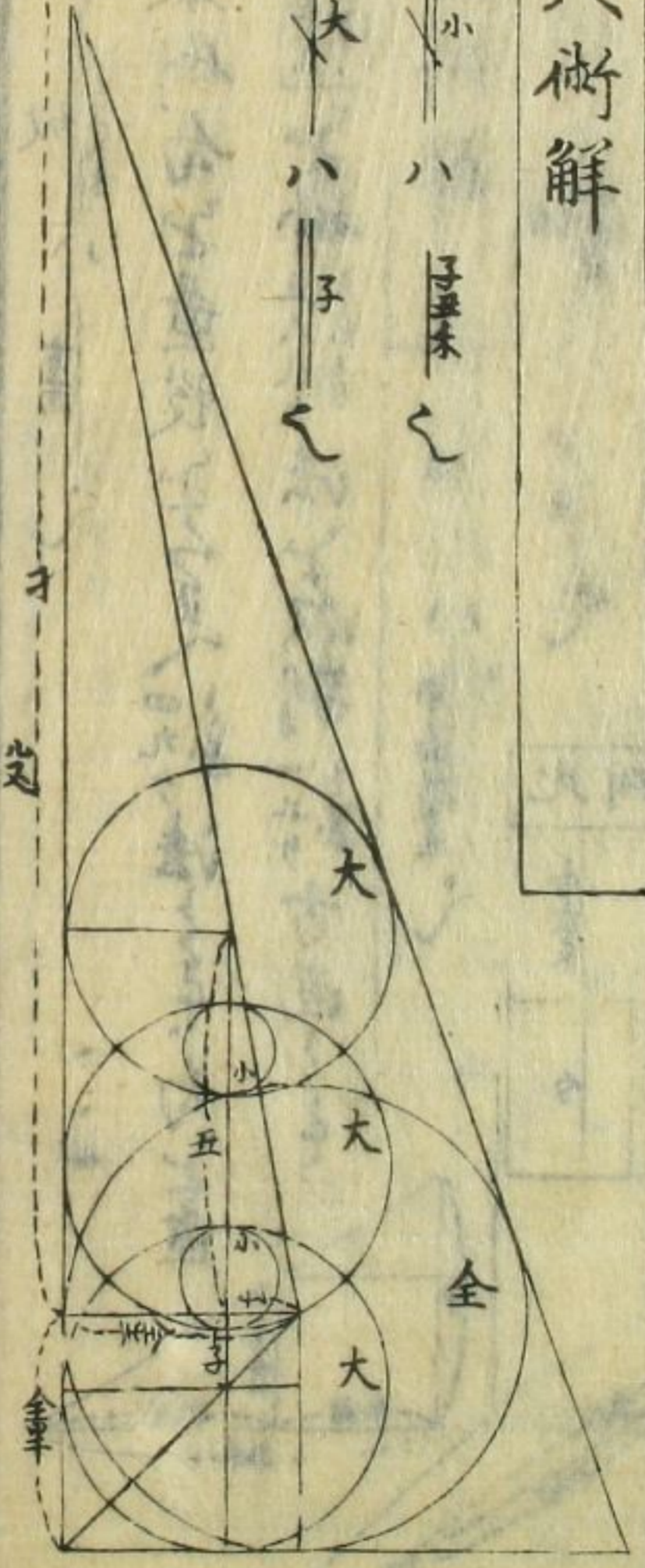
是故本術大斜を直 即子五ケと四ケを以割る 乙圓径を掛る 九ケと実トス 甲乙圓径の和を以割る 三ケと菱面とて



### 十八術解

本 ハ 子五木 ハ 子五木

金 大 ハ 子 ハ 子



比例不仍 子五木ハ 子五木

括 解 大 全 ハ 子 ハ 子

比例式	
子	子五木
全	金

是故本術大圓径を量内小圓径を減 余 二倍して全圓径を掛 二ケ 実 とて 全圓径と大圓径の差 二ケ を以割る 一ケ 股 とて

### 十九術解

比例不仍 大 ハ 小 ハ 小

是故本術中圓径を量是を掛合せ 三六ケ 大圓径を以割る 四ケ 小圓径 とて

比例式	
大	中
中	小

### 二十術解

比例不仍 中 ハ 下 ハ 上

是故本術中圓径を量是を掛合せ 四ケ

比例式	
上	中
中	下

上各徑を以割ケ下各徑とと

### 二十一術解

比例不仍<sup>乙丙</sup>ハ丁<sup>一</sup>也

是故本術乙圓徑を量丙圓徑を掛<sup>六ケ</sup>と

甲圓徑を以割ケ<sup>六</sup>丁圓徑とと

比例式	
甲	乙
丙	丁

### 二十二術解

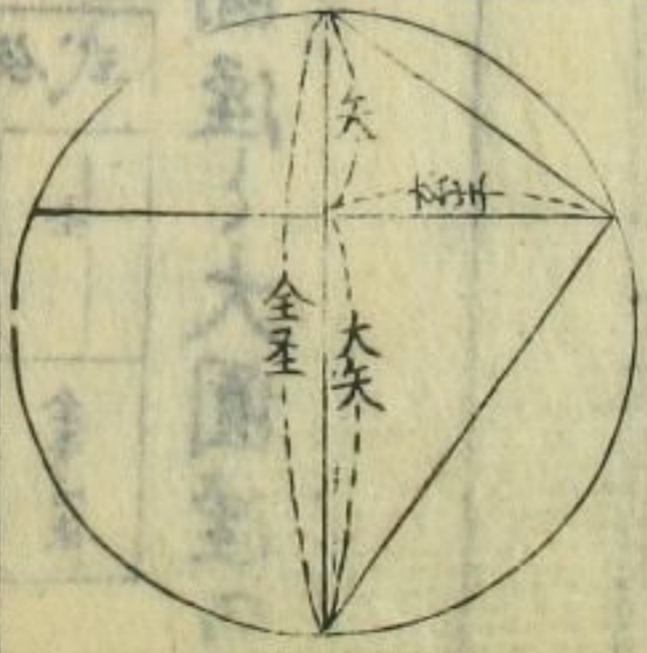
比例不仍<sup>玄半中</sup>ハ大夫<sup>一</sup>也

矢を加<sup>玄半中</sup>ハ<sup>一</sup>全<sup>一</sup>也

是故本術弦を量折半して<sup>二</sup>是と掛合せ

矢を以割矢加<sup>五ケ</sup>ハ<sup>一</sup>全圓徑とと

比例式	
矢	玄
矢	玄



### 二十三術解

西表 東表 一形多表

比例不仍<sup>一形</sup>ハ<sup>一</sup>農家<sup>一</sup>也

是故本術西表へ納る俵数の内東表へ納る

俵数を減余<sup>三</sup>是を以<sup>五</sup>は<sup>一</sup>俵数を割ケ<sup>三</sup>ハ<sup>一</sup>農家の形数とと

比例式	
東表	一形
西表	農家

### 二十四術解

西表 東表 一形多表 總表

比例不仍<sup>一形</sup>ハ<sup>一</sup>日教<sup>一</sup>也

是故本術西表出米を量折半して<sup>二</sup>是と掛合せ

西表残米の内東

表を以東表出米を減余<sup>二</sup>法とと

### 二十五術解

西表 東表 一形多表 總表

比例式	
一日	一日
總出米	日教



買相 賣相 一石益米 一

比例不仍く 一石益米 一石益米 一石益米

是故本術買益相場の内賣相場をぐんド余 五ヶ。是を以  
益米を割り 一六ヶ 元金とと

比例式	
益米	五ヶ
元金	一石

### 二十六術解

良相 江相 益令 益良 益令 益良

ハ 江石内 内大板相場と減じ 良相 大板 一石益良

ハ 益良 一石益良 一石益良

ハ 益良 一石益良 一石益良

比例不仍く 一石益良 益銀を渡じ 一石益良 一石益良

是故本術根相場を量江戸米相場を割り 七ヶ内大板相場  
是を以益金以割り 五ヶ根相場をかき 三。一六ヶ  
買益米高とと

### 二十七術解

一算を立銀相場とと 良相

この題とて一算を引くけのぐ 坐不向折の如以傳書してあ  
術の終りまで是を用ひ 左不考とお消とのま数と求るおちひと割  
或は掛りひの平方おひとと其付置ふよとと 一六ヶ

只云令以直根相場と掛 良相

只云根を加へ只云残を以割 良相 一石益良 一石益良

根相場益内又云根を減ド余又云残を以割

良相 又表 一石益良 一石益良

左不考と相消 良相 一石益良 一石益良

けた不考とお消と去我 左不考の敷くもお消ぬかりを一方と元金  
負と一元負かりお消してた不考とお消の二枚とむらふまらふ

お消しつちやう後よりお消のこも是れお消し

遍除象只云殘と又云殘と掛

只表 只表 只表 只表 只表 只表 只表 只表 只表 只表

左右傍をひらき減省き

只表 只表 只表 只表 只表 只表 只表 只表 只表 只表

この空数をも別する物ありては其別する物をお消し  
空数小を左右傍出あたりの上をさされしはのり別する物あり  
あはれ後よりお消し除象のみ算するの義はあはれ

右定空数と只限相場及び式を求

空数の内限相場のかき算本を定級小並限相場のをりては算本は  
其限相場を看きて残算本を法級小並に但限相場小限にせしめり  
始一算と算し限小を付しは物丈と省て法級小並に後皆是れお消し

数と只傍書小へ 一七〇〇〇〇ケ 二八〇〇〇ケ

只表 只表 只表 只表 只表 只表 只表 只表 只表 只表

法を以て実割限相場六十月とひらけ故小本術の如し

二十八術解

一算と立大豆俵入りて 大入

大入 大豆石数

石数内の内大豆石数を減じ 石 大入 小豆石数 左小より

是れ小豆俵数を掛 小表 小表 小豆石数 小表 小表 小表 小表 小表 小表

左小をりて相消 石 大入 小表 小表 小表 小表 小表 小表 小表 小表

右空数小仍り大豆俵入りて式を求 即大豆俵入りり者 是れ省りて法級と也

数と只傍書小換 五二七七五 一二五ナ

石 小表 小表 小表 小表 小表 小表 小表 小表 小表

只表 小表 小表 小表 小表 小表 小表 小表 小表 小表

只表 小表 小表 小表 小表 小表 小表 小表 小表 小表

只表 小表 小表 小表 小表 小表 小表 小表 小表 小表

以實以割大豆俵入二合并以以以之故小本術の如し  
二十九術解



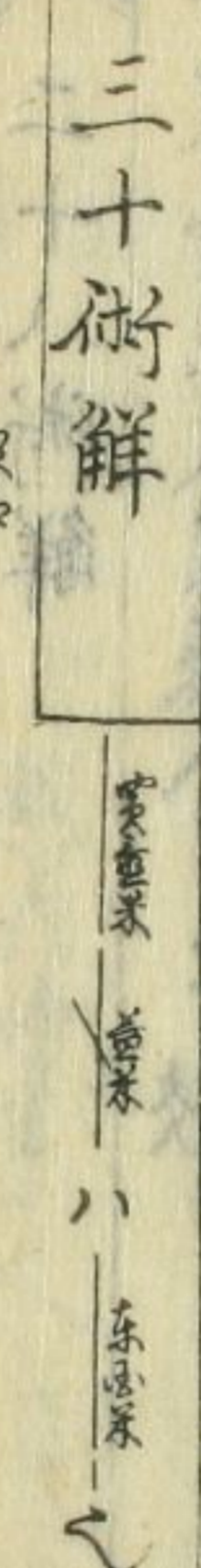
比例不仍く  $\frac{只米}{又米} = \frac{八}{八}$  括を  $\frac{只米}{又米} = \frac{八}{八}$  式例比 

只米	只代合
又米	又代合



是故本術只云俵数を並其俵入を掛一六〇ヶ是より又云俵数を割一ヶ五三二又云俵入を只云令以掛一〇七ヶ一八是より又云俵数を余〇ヶ一八七と以増俵を割一ヶ銀相場とを  $\frac{只米}{又米} = \frac{八}{八}$  式例比 

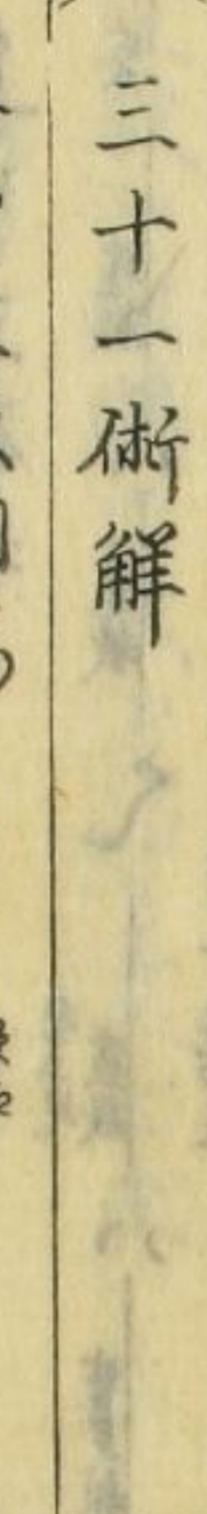
只米	只代合
又米	又代合



三十術解 比例不仍く  $\frac{只米}{又米} = \frac{八}{八}$  式例比 

只米	只代合
又米	又代合

是故本術買並米を並内益米を減し余三八〇ヶとを  $\frac{只米}{又米} = \frac{八}{八}$  銀相場掛二二八〇代銀少く割〇ヶ九五東玉相場とを



一算を立浪相場とを  $\frac{只米}{又米} = \frac{八}{八}$  式例比 

只米	只代合
又米	又代合

銀相場の内另云俵を減し  $\frac{只米}{又米} = \frac{八}{八}$  比例不仍く  $\frac{只米}{又米} = \frac{八}{八}$  括を  $\frac{只米}{又米} = \frac{八}{八}$  式例比 

只米	只代合
又米	又代合

一貫文の浪以解  $\frac{只米}{又米} = \frac{八}{八}$  左小と  $\frac{只米}{又米} = \frac{八}{八}$

只云金以並浪お場を加多只云俵を加  $\frac{只米}{又米} = \frac{八}{八}$  後本術け形を  $\frac{只米}{又米} = \frac{八}{八}$

左小と相消  $\frac{只米}{又米} = \frac{八}{八}$  空数  $\frac{只米}{又米} = \frac{八}{八}$  右空数と以浪お場を以形式以求

数を以て傳書お換 七三〇ハケ 一三二ハケ

是故本術又云... 金を減り余... 銀を加へ七三〇ハケ... 掛只云限を加へ一三二七

三十二術解

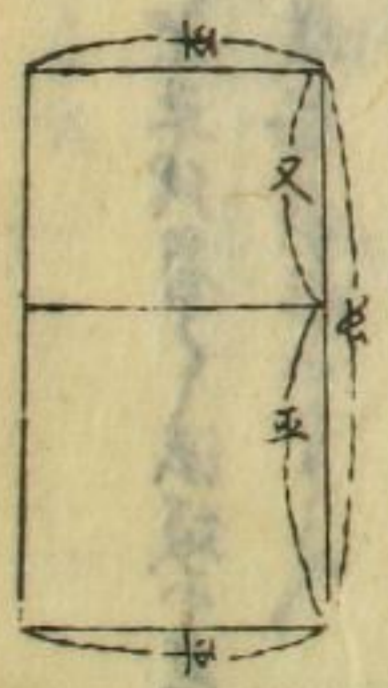
一算を立鶴教と... 鶴亀足教相併... 只 亀教 雀教 空

左小券と相消... 右空教を以て鶴の数を... 空教

故本術のぶ... 数を以て傳書とく 二二ハケ 二ハケ

三十三術解

一算を立平と... 長を並平と掛... 左小券と相消... 空教



右空数と平方とばり式を求

平のなほと老と実級小をおと平のなほと老を平減省く法級小直  
 平界のをとる老平界と省く廉級小をおと後皆おれふとく

冊	尺	又	冊	又	冊	又
			教	ふ	く	二ニケ
			冊	四ケ	冊	四ケ
					冊	一ケ
					冊	一ケ
					冊	一ケ
					冊	一ケ
					冊	一ケ

加減式と云

実广相乗者  $\frac{1}{2}$  尺 寸のど  $\frac{1}{2}$  位小とし

方半者  $\frac{1}{2}$  尺 寸のど  $\frac{1}{2}$  天と云

方半界内位小をおと減  $\frac{1}{2}$  尺 寸 平積実と云

平方小開き  $\frac{1}{2}$  平方高 内方半を減く余再実と廉を

以再法と一帰除の式を作れ

平方高  $\frac{1}{2}$  尺 寸 平をばり式 教ふく  $\frac{1}{2}$  三ケ  $\frac{1}{2}$  冊 冊

是故本術又云を畫折半して  $\frac{1}{2}$  尺 寸と 天と云是を掛合せ只  
 云を加へ  $\frac{1}{2}$  尺 寸 平方小開き  $\frac{1}{2}$  平方高 内天を減く余  $\frac{1}{2}$  尺 寸平と云

三十四術解

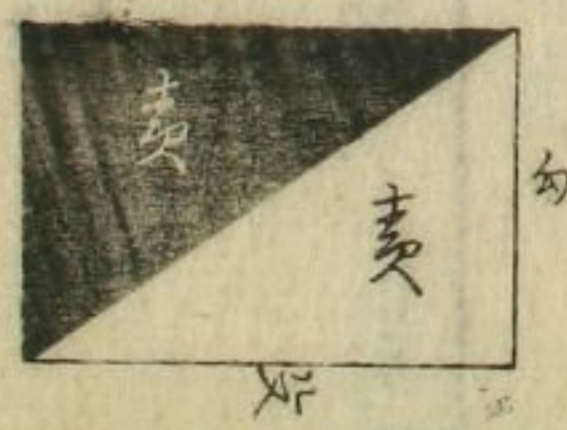
一算を立勾ととて  $\frac{1}{2}$  尺 寸 又  $\frac{1}{2}$  尺 寸 一  $\frac{1}{2}$  尺 寸

股を畫勾を掛  $\frac{1}{2}$  尺 寸 ハ  $\frac{1}{2}$  尺 寸 左小とと

只云と畫是は倍  $\frac{1}{2}$  尺 寸 ハ  $\frac{1}{2}$  尺 寸 右清級

左小とと相消  $\frac{1}{2}$  尺 寸 空数

右空数を以勾をばり式



冊	尺	又	冊	又	冊	又
			教	ふ	く	二ニケ
			冊	四ケ	冊	四ケ
					冊	一ケ
					冊	一ケ
					冊	一ケ
					冊	一ケ

方半者  $\frac{1}{2}$  尺 寸 かくのど  $\frac{1}{2}$  天と云

方半舟内位小糸と減じ 平積実と云  
 平方小開と 是を以方半を減じ再実と  
 廉を以再方と 帰除式を作れ

$$\frac{\text{平方商}}{\text{天}} \times \frac{\text{中勾}}{\text{外}} \text{を以て式} \quad \text{数少く } \frac{\text{二ナ}}{\text{ナ}}$$

故本術の如し

三十五術解

一算以中勾と云  
 玄と中勾と掛 又 中勾ハ 責 左ふと云  
 只云と重は以倍し ハ 責 〆 お消数と云  
 左ふと相消 中勾 〆 空数



右空数を以中勾と以て式

$$\frac{\text{尺}}{\text{冊}} \times \frac{\text{又}}{\text{ナ}} \quad \text{数少く } \frac{\text{ニナ}}{\text{ナ}} \times \frac{\text{ニナ}}{\text{ナ}} \quad \frac{\text{ナ}}{\text{ナ}} \quad \text{加減式と云}$$

実廉相乗者 〆 かくのごとく 位少と云

方半者 〆 けのごとく 天と云  
 方半舟内位小糸と減じ 平積実  
 平方小開と 内方半を減じ余再実と 廉を  
 以再法と 帰除の式を作れ

$$\frac{\text{平方商}}{\text{ナ}} \times \frac{\text{中勾}}{\text{外}} \text{を以て式} \quad \text{数少く } \frac{\text{ニナ}}{\text{ナ}} \times \frac{\text{ナ}}{\text{ナ}}$$

故本術の如し

三十六術解



右空数を以方面以は式

数久久 一ニケ 一〇ケ 二ケ 二高式と云

常 天 母 母 母 母

実廉相乗者 平長 長と云 位ふと云 天長

方半者 平 けの如く 天と云

方半卑内位ふ者どぞんじ 天中 大平中 平積実と云

平方小開者 平方高 方半を加減して各実とく廉と云

方とく 帰除式二件を住れ

平方高 方面を以る式 平方高 方面を以る式

天 母 母 母 母

各法を以実を割

平方商地と云

二 天 地 二 前方面 二 天 地 二 后方面 二 天 地 二 后方面

后方面是を變とて 前方面 地 二 后方面 二 故不本術の如く

三十八術解

一算を立置とて 又 二 横

另云内横を減じ 又 二 横

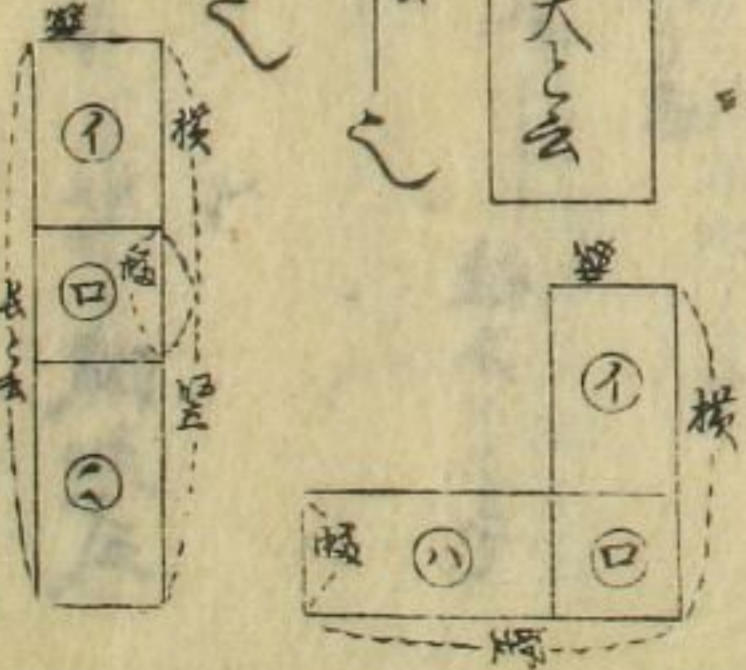
是を括とて 天 二 横 二 又 二 横 二 又 二 横 二 又 二 横 二 又 二 横

豎横相併内横を減じ 又 二 横 二 又 二 横 二 又 二 横 二 又 二 横

幅を掛 又 二 横 二 又 二 横 二 又 二 横 二 又 二 横

尺 二 横 二 又 二 横 二 又 二 横 二 又 二 横

左小者と相消 又 二 横 二 又 二 横 二 又 二 横 二 又 二 横





右組合小仍く置を以て式

$$\begin{array}{l} \begin{array}{c} \text{又天} \\ \text{天} \\ \text{天} \end{array} \quad \text{教小入} \quad \begin{array}{l} \text{二九ケ} \\ \text{三六ケ} \\ \text{ニケ} \end{array} \quad \text{減加式} \\ \begin{array}{c} \text{天} \\ \text{又} \end{array} \\ \begin{array}{c} \text{只} \\ \text{又} \end{array} \\ \begin{array}{c} \text{天} \\ \text{又} \end{array} \end{array}$$

實廉相乗者 帯 只 此の如く 位小よき

方半者  $\begin{array}{l} \text{天} \\ \text{又} \end{array}$  此のおとく 地と云

方半卑内位小者と減じ 帯 積実と云

平方小開き  $\begin{array}{l} \text{平方高} \\ \text{平方高} \end{array}$  方半を加へ再実と一廉より再法

然らば歸除の式を作れ

$$\begin{array}{l} \text{平方高} \\ \text{地} \end{array} \quad \text{豎を以て式} \quad \text{教小入} \quad \begin{array}{l} \text{二ケ} \\ \text{三ケ} \end{array} \quad \text{教小本例}$$

### 番外

平方式を歸除式に定法

凡平方式の高を類盤上小以て法の其平方式の正負小仍く加減同どくご故ふりく左小是と云るに

○上連 実 方 ナ かく式と云 上二級同名也へ上連と云

け式を歸除式小縮法

方半中 新 平積実と云 上下相加と故ふ加と云

方半 平方高 歸除式実と云 上下相加と故ふ又加と云

此の如く支度とも小か小故ふかく式と云

歸除式又作れ

平方商 ナ 定式

方半 海 女

変格

実	平方高	け式高
方半	上と同じ	

○下連 実 方 ナ 加減式と云 下二級同名より下連式より

け式を帰除式に縮む法

方半中 野 平積実と云 上下相加を故に加へり

平方高 方半 帰除式実と云 上下相減を故に減と云

けの如く初らるる後ハ減を故に加減式と云

帰除式を作れ

平方高 ナ 定式

方半 母 女

変格

実	平方高
方半	け式は高
母 女	上と同じ

○中断 実 方 ナ

け式を帰除式に縮むの法

方半中 野 平積実と云 上下相減を故に減と云

減く式まゝ減如式と云

け式上下級同名より中異名たり故に中断と云

子高

方半 平方高 少高を以て帰除式実と云 上下相減を故に減と云

帰除式を作れ

方半 ナ 少高を以て定式

平方高 母 女

変格

実	方半
平方高	け式は高
母 女	上と同じ

方半 ナ 多高を以て定式

平方高 母 女

変格

実	方半
平方高	け式は高
母 女	上と同じ

平方式は二式より四高あり帰除式と云はるの法如くの如く若し法の如く加減たりあらず却る減を以て虚積と云ふべし是より以下帰除式を作るの解法を但括解其業極むるも容易なることあらず若し其法を詳しむる



### 四十一術解

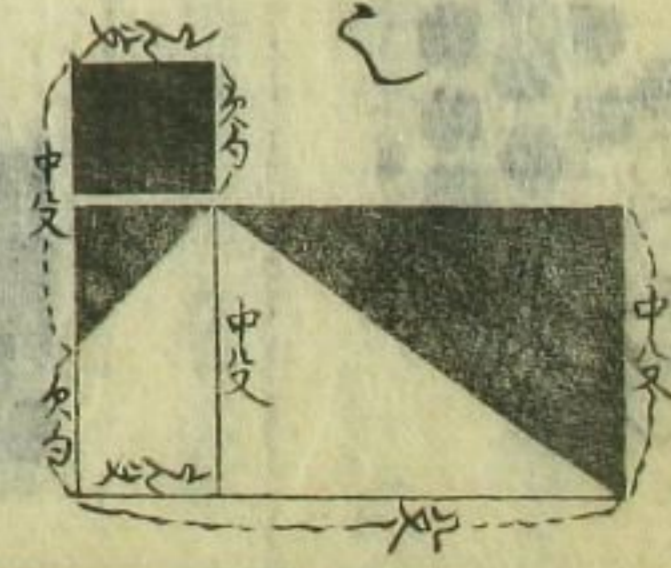
責二段の形

圓解小仍く是より其  $\text{〓}$   $\text{ハ}$   $\text{數}$   $\text{ハ}$   $\text{數}$

故只云二段内欠勾因短又減じ  $\text{〓}$   $\text{ハ}$   $\text{數}$   $\text{ハ}$   $\text{數}$

中心又と割  $\text{〓}$   $\text{ハ}$   $\text{數}$   $\text{ハ}$   $\text{數}$

故本術の如



### 四十二術解

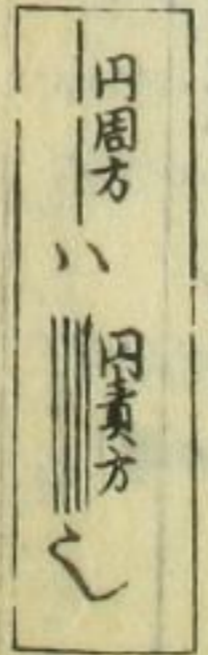
一算と立圓徑と  $\text{〓}$   $\text{ハ}$   $\text{數}$   $\text{ハ}$   $\text{數}$

只云と置内各積と減じ  $\text{〓}$   $\text{ハ}$   $\text{數}$   $\text{ハ}$   $\text{數}$

圓徑と立圓周法と掛  $\text{〓}$   $\text{ハ}$   $\text{數}$   $\text{ハ}$   $\text{數}$

危小案と相消  $\text{〓}$   $\text{ハ}$   $\text{數}$   $\text{ハ}$   $\text{數}$

圓徑と以れ式



只  $\text{〓}$   $\text{ハ}$   $\text{數}$   $\text{ハ}$   $\text{數}$  原式  $\text{〓}$   $\text{ハ}$   $\text{數}$   $\text{ハ}$   $\text{數}$  け式遍各積法と以割

只  $\text{〓}$   $\text{ハ}$   $\text{數}$   $\text{ハ}$   $\text{數}$  定式  $\text{〓}$   $\text{ハ}$   $\text{數}$   $\text{ハ}$   $\text{數}$  敷久  $\text{〓}$   $\text{ハ}$   $\text{數}$   $\text{ハ}$   $\text{數}$  加減式

實廉相乗者  $\text{〓}$   $\text{ハ}$   $\text{數}$   $\text{ハ}$   $\text{數}$  位小

方半者  $\text{〓}$   $\text{ハ}$   $\text{數}$   $\text{ハ}$   $\text{數}$  かくのど

方半弁内位小案と  $\text{〓}$   $\text{ハ}$   $\text{數}$   $\text{ハ}$   $\text{數}$  余  $\text{〓}$   $\text{ハ}$   $\text{數}$   $\text{ハ}$   $\text{數}$  平積実と云

平方小割  $\text{〓}$   $\text{ハ}$   $\text{數}$   $\text{ハ}$   $\text{數}$  帰除の式と以れ

平高  $\text{〓}$   $\text{ハ}$   $\text{數}$   $\text{ハ}$   $\text{數}$  圓徑と以れ式  $\text{〓}$   $\text{ハ}$   $\text{數}$   $\text{ハ}$   $\text{數}$  故本術のど

### 四十三術解

一算を立一番の取限とて

人数  $\frac{1}{2}$  圭銀底子  $\frac{1}{2}$

人数と掛折半

人数  $\frac{1}{2}$  圭銀底子  $\frac{1}{2}$

差限とくも

人数  $\frac{1}{2}$  下置  $\frac{1}{2}$

人数を並一番の取限と掛

内下帳責と減し  $\frac{1}{2}$  人数  $\frac{1}{2}$  上置  $\frac{1}{2}$

お清取とて

左ふあと相消

遍人数を割

一人 二人 三人 四人 五人 六人 七人 八人 九人 十人

算盤の珠の並び方

一番の取限を以て式

人数  $\frac{1}{2}$  法を以て割

是とくも

故小本術のごとく

四十四術解

一算を立一番の取限とて

人数  $\frac{1}{2}$  圭銀底子  $\frac{1}{2}$

人数  $\frac{1}{2}$  底子  $\frac{1}{2}$

底子と云を割

前類の一番の取限を並

一人 二人 三人 四人 五人

算盤の珠の並び方

只云数八即ち

配分良 人数  $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{3}$   $\frac{1}{4}$   $\frac{1}{5}$   $\frac{1}{6}$   $\frac{1}{7}$   $\frac{1}{8}$   $\frac{1}{9}$   $\frac{1}{10}$   $\frac{1}{11}$   $\frac{1}{12}$   $\frac{1}{13}$   $\frac{1}{14}$   $\frac{1}{15}$   $\frac{1}{16}$   $\frac{1}{17}$   $\frac{1}{18}$   $\frac{1}{19}$   $\frac{1}{20}$

け配分限を配分令ふくは限を右のえ令ふ換今同所の令と

配分令 人数  $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{3}$   $\frac{1}{4}$   $\frac{1}{5}$   $\frac{1}{6}$   $\frac{1}{7}$   $\frac{1}{8}$   $\frac{1}{9}$   $\frac{1}{10}$   $\frac{1}{11}$   $\frac{1}{12}$   $\frac{1}{13}$   $\frac{1}{14}$   $\frac{1}{15}$   $\frac{1}{16}$   $\frac{1}{17}$   $\frac{1}{18}$   $\frac{1}{19}$   $\frac{1}{20}$

乗除の同数を省き 配分令  $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{3}$   $\frac{1}{4}$   $\frac{1}{5}$   $\frac{1}{6}$   $\frac{1}{7}$   $\frac{1}{8}$   $\frac{1}{9}$   $\frac{1}{10}$   $\frac{1}{11}$   $\frac{1}{12}$   $\frac{1}{13}$   $\frac{1}{14}$   $\frac{1}{15}$   $\frac{1}{16}$   $\frac{1}{17}$   $\frac{1}{18}$   $\frac{1}{19}$   $\frac{1}{20}$

け解のゆ、別不空数を求むとして前理と同事なるを能く

前ふはる空数を用ひ後の用ふはるも又勞とふとて

### 四十五術解

一算とある一番の取限とと  $\frac{1}{2}$

下の図解をみて各限ごとの責と求む

人数  $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{3}$   $\frac{1}{4}$   $\frac{1}{5}$   $\frac{1}{6}$   $\frac{1}{7}$   $\frac{1}{8}$   $\frac{1}{9}$   $\frac{1}{10}$   $\frac{1}{11}$   $\frac{1}{12}$   $\frac{1}{13}$   $\frac{1}{14}$   $\frac{1}{15}$   $\frac{1}{16}$   $\frac{1}{17}$   $\frac{1}{18}$   $\frac{1}{19}$   $\frac{1}{20}$

銀分配	
一番	$\frac{1}{2}$
二番	$\frac{1}{3}$
三番	$\frac{1}{4}$
四番	$\frac{1}{5}$
五番	$\frac{1}{6}$
六番	$\frac{1}{7}$
七番	$\frac{1}{8}$
八番	$\frac{1}{9}$
九番	$\frac{1}{10}$
十番	$\frac{1}{11}$
十一番	$\frac{1}{12}$
十二番	$\frac{1}{13}$
十三番	$\frac{1}{14}$
十四番	$\frac{1}{15}$
十五番	$\frac{1}{16}$

### 形の四番

一	$\frac{1}{2}$	$\frac{1}{3}$	$\frac{1}{4}$	$\frac{1}{5}$
二	$\frac{1}{3}$	$\frac{1}{4}$	$\frac{1}{5}$	$\frac{1}{6}$
三	$\frac{1}{4}$	$\frac{1}{5}$	$\frac{1}{6}$	$\frac{1}{7}$
四	$\frac{1}{5}$	$\frac{1}{6}$	$\frac{1}{7}$	$\frac{1}{8}$

一限責内二三四の四積とぐんド

人数  $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{3}$   $\frac{1}{4}$   $\frac{1}{5}$   $\frac{1}{6}$   $\frac{1}{7}$   $\frac{1}{8}$   $\frac{1}{9}$   $\frac{1}{10}$   $\frac{1}{11}$   $\frac{1}{12}$   $\frac{1}{13}$   $\frac{1}{14}$   $\frac{1}{15}$   $\frac{1}{16}$   $\frac{1}{17}$   $\frac{1}{18}$   $\frac{1}{19}$   $\frac{1}{20}$

配分限と並 相消教とと

左小空と相消 人数  $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{3}$   $\frac{1}{4}$   $\frac{1}{5}$   $\frac{1}{6}$   $\frac{1}{7}$   $\frac{1}{8}$   $\frac{1}{9}$   $\frac{1}{10}$   $\frac{1}{11}$   $\frac{1}{12}$   $\frac{1}{13}$   $\frac{1}{14}$   $\frac{1}{15}$   $\frac{1}{16}$   $\frac{1}{17}$   $\frac{1}{18}$   $\frac{1}{19}$   $\frac{1}{20}$

右空教上一位一番の取限と省く法と下五位相併く実と法と

割得 人数  $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{3}$   $\frac{1}{4}$   $\frac{1}{5}$   $\frac{1}{6}$   $\frac{1}{7}$   $\frac{1}{8}$   $\frac{1}{9}$   $\frac{1}{10}$   $\frac{1}{11}$   $\frac{1}{12}$   $\frac{1}{13}$   $\frac{1}{14}$   $\frac{1}{15}$   $\frac{1}{16}$   $\frac{1}{17}$   $\frac{1}{18}$   $\frac{1}{19}$   $\frac{1}{20}$

括号	人数 $\frac{1}{2}$ $\frac{1}{3}$ $\frac{1}{4}$ $\frac{1}{5}$ $\frac{1}{6}$ $\frac{1}{7}$ $\frac{1}{8}$ $\frac{1}{9}$ $\frac{1}{10}$ $\frac{1}{11}$ $\frac{1}{12}$ $\frac{1}{13}$ $\frac{1}{14}$ $\frac{1}{15}$ $\frac{1}{16}$ $\frac{1}{17}$ $\frac{1}{18}$ $\frac{1}{19}$ $\frac{1}{20}$
甲	人数 $\frac{1}{2}$ $\frac{1}{3}$ $\frac{1}{4}$ $\frac{1}{5}$ $\frac{1}{6}$ $\frac{1}{7}$ $\frac{1}{8}$ $\frac{1}{9}$ $\frac{1}{10}$ $\frac{1}{11}$ $\frac{1}{12}$ $\frac{1}{13}$ $\frac{1}{14}$ $\frac{1}{15}$ $\frac{1}{16}$ $\frac{1}{17}$ $\frac{1}{18}$ $\frac{1}{19}$ $\frac{1}{20}$
乙	人数 $\frac{1}{2}$ $\frac{1}{3}$ $\frac{1}{4}$ $\frac{1}{5}$ $\frac{1}{6}$ $\frac{1}{7}$ $\frac{1}{8}$ $\frac{1}{9}$ $\frac{1}{10}$ $\frac{1}{11}$ $\frac{1}{12}$ $\frac{1}{13}$ $\frac{1}{14}$ $\frac{1}{15}$ $\frac{1}{16}$ $\frac{1}{17}$ $\frac{1}{18}$ $\frac{1}{19}$ $\frac{1}{20}$
丙	人数 $\frac{1}{2}$ $\frac{1}{3}$ $\frac{1}{4}$ $\frac{1}{5}$ $\frac{1}{6}$ $\frac{1}{7}$ $\frac{1}{8}$ $\frac{1}{9}$ $\frac{1}{10}$ $\frac{1}{11}$ $\frac{1}{12}$ $\frac{1}{13}$ $\frac{1}{14}$ $\frac{1}{15}$ $\frac{1}{16}$ $\frac{1}{17}$ $\frac{1}{18}$ $\frac{1}{19}$ $\frac{1}{20}$

此括号人数とるも二段  
まゝかゝり人数四つ  
必一ヶ故不足とて

是をうけて 一算 二算 三算 四算 五算 六算 七算 八算 九算 十算

故小本術の如し

四十六術解

一算を立上組一番の取米とす

上人数 下人数

人数を掛折半して 上人数 上人数 下人数

差米と掛 上人数 大人数 下人数

上下積相併 上人数 上人数 上組取米

逐く内割方と掛 内割方 外割方

内割方 外割方

内割方 外割方

假	一	上	一
人	二	上	二
数	三	上	三
五	四	上	四
人	五	上	五
小	六	上	六
死	七	上	七
分	八	上	八
の	九	上	九
果	十	上	十

下は是をうけて是が候

上人数 上人数 上人数 上人数 下組取米

上下取米相併題云配為米を以相消

上人数 上人数 上人数 上人数

上組一番の取米を以る式

故小本術の如し

故小本術の如し

外割方	壹	上	一
内割方	貳	上	二
内割方	参	上	三
内割方	肆	上	四
内割方	伍	上	五
括号	ハ	上	六
お	カ	上	七

四十七術解

一算と立節ぶりの差米と



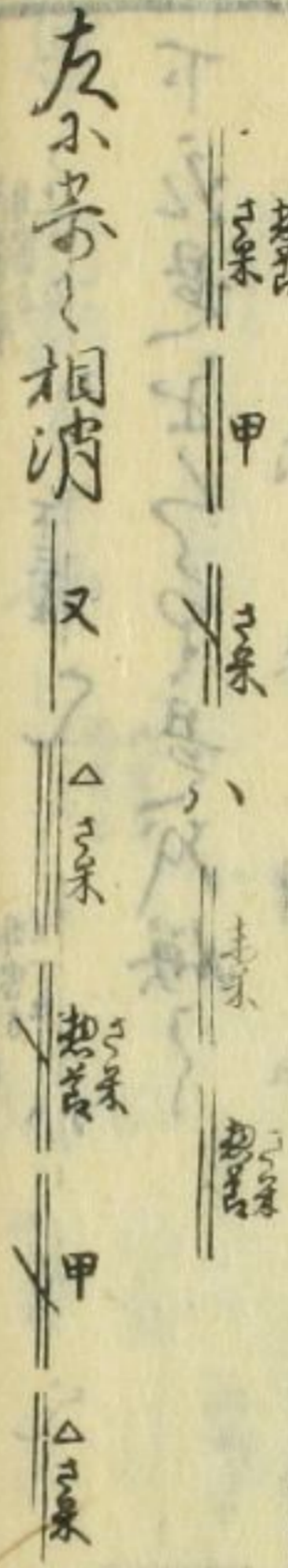
假小熟節教七十八として其術意と云ふなり



故 甲 三 又 八 未米 未米 未米 未米 未米

又云と立節差米三版を加へ

差米と立節の数を掛未米を加へて倍して



△印同加して

差米を以て式

教小之

空教

故小本術の如

番外 地方誌算法誌名目根元

水田を以て

陸田を云公私を今け畑の字を用ゆ日本記英和名抄も  
 嘆の字を以てけと訓む又鎌倉將軍家の以い畠の字を用ゆ

町 十及を云即三千坪之古ハ三千六百坪と町とを  
 百文五町別宿一匹夫二人可充行  
 至島以二町 可准田一町  
 有畑畠の字共和字也



反 十畝を云即三百坪といふ一畝は作る縦三十間横十二間  
其積三百六十坪を反と云

畝 三十歩を云いふ一畝は名は一つの頃を始ふ云ふは加へば  
といへども天正の後の事と云へるは反別小掛と云ふ地一畝就て  
何程といふは一反小掛と何程といふと云ふ考まゝ畝の名目後  
年小畝とてと云ふはさうやう

歩 亦坪と云方六尺の積と云拾芥抄云凡田以方六尺為歩と  
出らる今用ゆる坪川楮の内法少く六尺壹合四方を用ゑ

反別 反教といふべしと反別と云ふ其何故といふと云ふと云ふ  
今公私ともし字と用ゆる和字と粟の字りといふと道徳のハハと  
訓あり粟と云ふ和漢朗詠集云花色如薤粟俗名と為

高 女師と云詩と云と謬と来りしを後一論語云冉子為其母  
請粟といふ一と一と叔と請たりあはちらひと云ふ

高 いふ一へ高と云ふは戸教と云ふ家教を何何百何十何戸を  
唱ふ其後貫高永高石高木の名目と云ふ

。貫高は鎌倉の軍家の末京都の軍家の始の田地の貫と云ふ  
と云ふ東國西玉とも一統行まると云ふは珍録云武士の  
知行は何千何百貫といふる當時も百姓の詞も残つてあると田  
一坪小苗一把種も事少て百坪は百把種も是と百目と云千坪は  
千把種は是と一貫目と云此積少く大抵十貫目百石百貫  
目も千石小あはれとも上中下小ともて一定せざるとあるべし  
。永高は石高以前關東諸国中々年貢辻を永樂錢つりて

知行領知やん子也此永高を用ひし由東海道筋鎌倉お小  
永高の所今以有といへる古来の終なるいふことなり永高  
時代の次分明なり京都府軍道我持公の時代應永十一年  
八月三日相列三寄浦今皇居云々へ漂船一艘来りて船中より取れ  
永樂錢數百貫と積来りて以悉留置し經由らねふといふ  
永樂錢多かりありし永高と云ふこと起りたる也

○石高ハ叔納より起る叔百石納る村と高百石の村と云叔千石  
納る村と高千石の村と云終極云大名の身上と幾万石と云平士の身  
上と幾千石幾百石と云の古法ありて大に信長秀吉の時超る  
と有安とい考へる時ハ石高と右の時代を始りて慶長の終り  
叔納といへる所の依りて叔納止く米を納る事なれり

叔米を納る小なりて之れを土地の善悪と年の豊凶よりして  
叔一升と云て米六七合を納れり又二三合納るものあり是  
よりして免といふる初りて高と納米と別ふぬ事なり

石盛 盛と斗と又斗代とも云ふは名一及歩の高以いふ  
○盛と云時の高といふ斗代と云時と其高と分米と云は或人  
の説なりと云うまじき分米といふは中の高といふがごとし一  
村の高を分米と書しむといふ事なり

○盛といふ時と幾つと云斗代といふ時ハ何石何斗と唱ふは  
或人の説なりと云うれども石盛何石何斗と出づる書も多  
く見へり

○石盛ありしと云ハ常の一の位ニ故ありしと云ハ石の分の

位々地方の算不到なる内位と語れるありては  
一坪の稲をうるも春法つひやとして一坪ある時と一反小叔三石五  
斗は五公五民の定法五分と掛一石五斗と成是と十五の  
盛と云け十五と云ハ斗非や十五あり由ハ十五の 一石盛の事、其  
國々の仕来又ハ土地の振子もあるるにわかれ一椀中と論ド  
かこ一其大意と述するの

反取米 一反歩の取米と云

たへハ一反の叔二石ある時ハ五合増減は是日見米一石五斗  
ありけ米へ五公の定法五分より七斗五升と成是と一反の  
取米と云残る七斗六升ハ百姓と云け五公五民の法ハ今公  
私ともり山むら夷ゆれともちたる

又四公六民の取と云あり是ハ右一石五斗ハ四公の定法四分を  
掛米六斗と成是と一反の取米と云残る九斗と百姓と云  
又六公四民の取と云ハ右一石五斗ハ六公の定法六分を掛米九斗と  
成是と一反の取米と云残る六斗と百姓と云

物成

又租税とも取箇とも成箇ともハ昔年貢のゆへ  
關東筋田方ハ米納と是を本途米とも取米と云ハ亦其成  
小對して秋成を云ハ又畑方ハ永納たるも麦作とも成ハ是亦  
て永納と云ハ六月中取立は是を其成と云厘付を仕起しハ  
永一貫又小定法二石五斗代を掛其成取米と云秋成取米  
河加へ高を割厘付を引給若五ヶ年十ヶ年平均厘を引給ハ  
右二石五斗の半分一石二斗五升と定法として其成取米

以末秋成を加へ平均厘付とす  
。上方筋の大抵支取場ゆへ畑年貢とて別納事なく  
残らぬ米をふして其米の内三分一限納ふるは限納相  
場年々不同なり

免

亦厘と云高一石の取米とす  
。厘付と云も免といふも同事なりとれども元來厘付ハ叔磨  
より起る免と古き詞やう是後年貢を免と爲し  
其餘ハ百姓ふりしてやれと云義ありといへり

。たゞへ高一石ふ三斗取と二ツと云四斗取と四ツと云俗  
是と二ツ物成四ツ物成といふ  
。厘と二ツと云ハ亦二番三番と云は算学津梁がへり

高免 亦高厘といふ其村の取米を其村高とて割る数と云  
毛付免 亦毛付厘といふ  
是ハ其村のハ免取用水取ある押堀川欠山崩高年不依  
ホよふ事とてよく引く余其年の立毛ある反別乃高  
やく其年の取米と割る数をいふ

口禾 或覺書云口禾ハ上方ハ一石付三升關東ハ三斗五升付一  
升と取立たり 是ハ地方役人給分書筆紙木の諸入用  
の爲ふ取立る今ハ諸家とて此口禾とて領主地頭の藏入  
地方の諸入用と別納領主地頭より出立

口永 本途永一貫文付口永三拾文と往古より取立たり  
中頃口永三十一文二分五厘と成享保五庚子年より成り

三十文とたるより是れ口米とあふり地方法入用  
取立しが今と領主地頭ノ蔵入とたるこ

見取場 是ハ反別斗ち高たぐ一反何程と取所といふ  
小物成 野籾山籾後徳糶屋上酒造算加未の敷其外  
内中と高小入と渡るとのあり

御蔵米入用

三百石斗

六尺給米

米

御傳馬宿入用

米

右三役と御領所小かざ私領ふらよをたしを定法  
あつて米とれを取立たす

地方算法乗除図解捷法

一反の五永  
算 拜数

一反の  
算 拜数

一反の  
算 言

一反の  
算 取米

一反の  
算 取米

一反の五永  
算 取永

一反の  
算 取

一反の  
算 分米

一反の  
算 取米

一反の  
算 畑言

一反の五永  
算 取米

一反の  
算 取米

算馬宿打内金

各瓶を別物と置換する物かられど内なる物とあるべし  
故小内なる物と置換する物より割る横なる物とあるべし又横  
たる物より別ハ瓶たる物とあるべし

若地方の題を以て其の若解を以て之を地方一通りの題と  
大抵は解ありてあるべし

四十八術解

評教ハ 及列  
及法ハ 及列

一及を一の位とて石盛及取皆一及ふつとての教多し故に  
一畝ハ三十歩に故小三十歩ふつとて其の教多し其の終重て  
何町何反何畝何歩といふたる也

四十九術解

及方ハ 及方  
故小本術の如し

五十術解

及方ハ 及方  
故小本術の如し

五十一術解

及方ハ 及方  
故小本術の如し

五十二術解

及方ハ 及方  
若反列畝以下小端歩以れ対ハ其端歩を以て  
及法より割畝以上の数を加へて其永を別へし

五十三術解

及方ハ 及方  
及法ハ 及法

勾昇股昇相俵



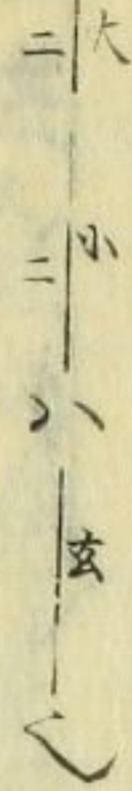
平方小  $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$

勾股和内玄をぐんド

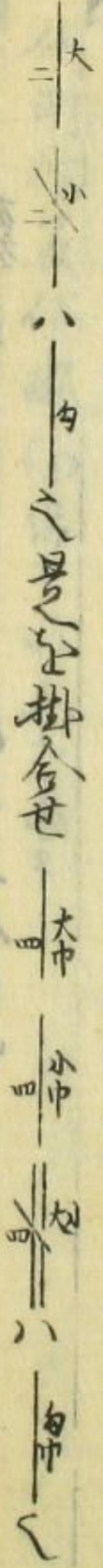


五十四術解

一算を立甲屋とて一甲

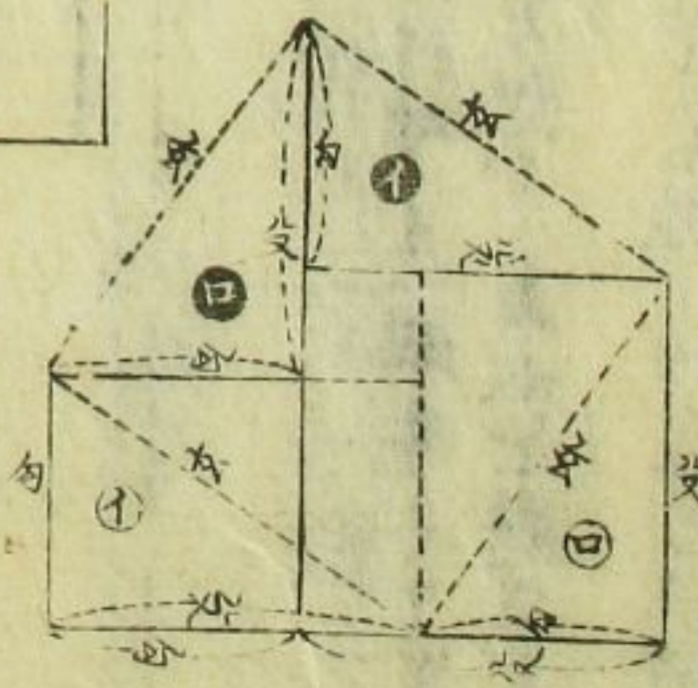


是を掛合せ  $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$



玄昇内勾昇とぐんド  $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$

勾昇股昇合て玄昇と  
ある術解



- ①  $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$
- ②  $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$
- ③  $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$
- ④  $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$

遍異減同加して乗除の同数を省き  $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$

平方  $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$

是を対換して  $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$

子丑相俵  $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$

左小右と相消  $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$

甲高を消れ式  $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$

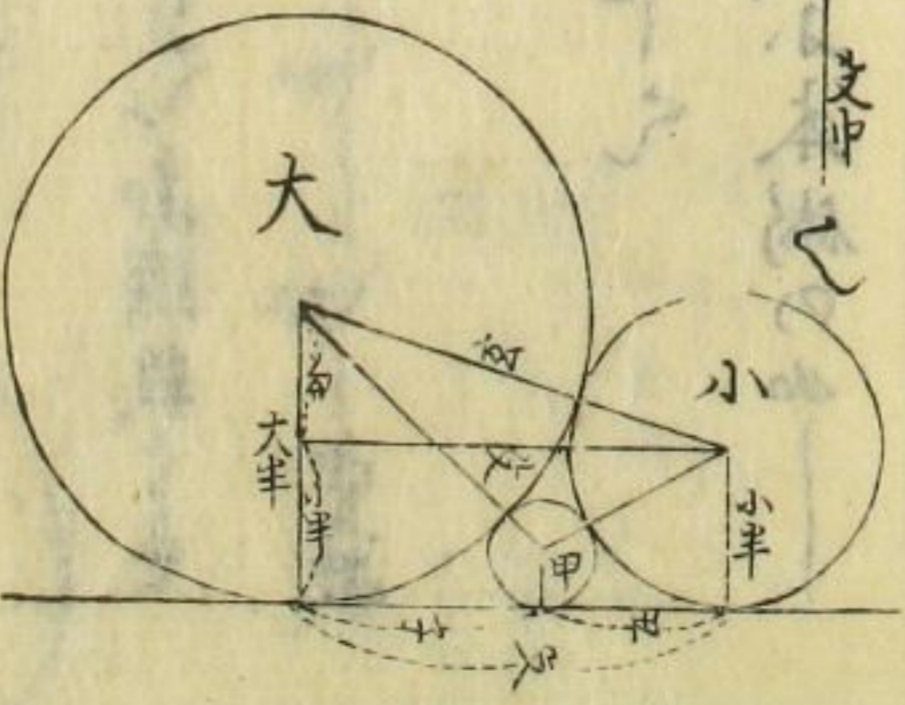
遍小高を以割  $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$

定式  $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{2}$

故



故小本術の如し

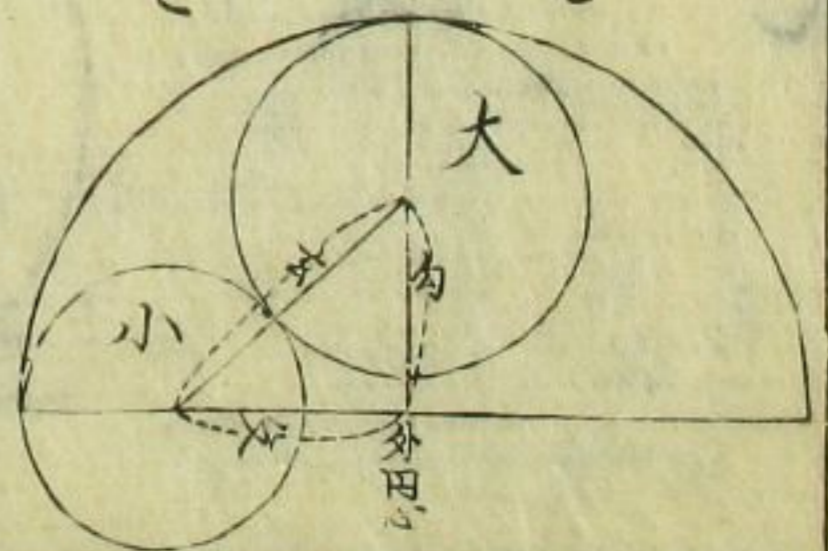


五十五術解

一算を立小渾とて



玄を並是を掛合せ



勾鼻交昇相併  
左小を相消遍減と等数と省き  
小渾を消る式

方と小実を割  
故本術の如し

五十六術解

一算を立方面とて

比例不仍く

方面を加内小渾を減

是を掛合せ

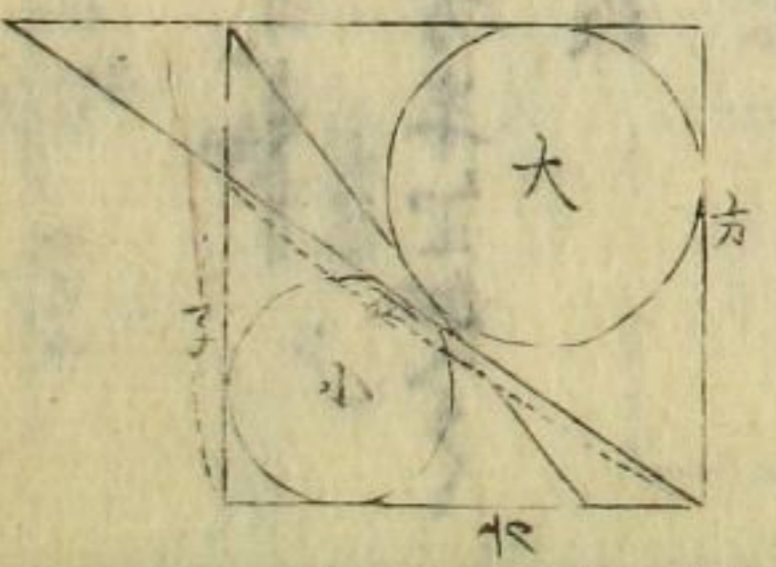
子昇方昇相併

左小を相消遍減とて

遍小渾を省除象を掛

方面を消る式

比例式		
小	大	全用
子	方	勾





実广相乗者  $\parallel$  かくのごとく  $\parallel$  伍ふとと

方半者  $\parallel$  かくの如く  $\parallel$

方半界内伍ふととを  $\parallel$  大  $\parallel$  小  $\parallel$  大  $\parallel$  大  $\parallel$

実減して余  $\parallel$  大  $\parallel$  小  $\parallel$  平方小算を  $\parallel$  平方  $\parallel$  方半を加へ

実と一广を  $\parallel$  方と一  $\parallel$  帰除の式を作れ

平  $\parallel$  方  $\parallel$  実を割  $\parallel$  大  $\parallel$  小  $\parallel$  平方  $\parallel$  方  $\parallel$

故本術の如く

五十七術解

一算を立小淫とと  $\parallel$  小

比例不仍  $\parallel$  大  $\parallel$  小  $\parallel$

小淫半を加へ  $\parallel$  大  $\parallel$  小  $\parallel$  小  $\parallel$  小  $\parallel$

式例比			
小	大	勾	
子	長	股	

是を掛合せ平算を加へ

大  $\parallel$  小  $\parallel$  大  $\parallel$  小  $\parallel$  大  $\parallel$  小  $\parallel$  大  $\parallel$  小  $\parallel$

平を並置分加へ

大  $\parallel$  小  $\parallel$  大  $\parallel$  小  $\parallel$  大  $\parallel$  小  $\parallel$

内小淫をかん

大  $\parallel$  小  $\parallel$  大  $\parallel$  小  $\parallel$  大  $\parallel$  小  $\parallel$

実減して

大  $\parallel$  小  $\parallel$  大  $\parallel$  小  $\parallel$  大  $\parallel$  小  $\parallel$

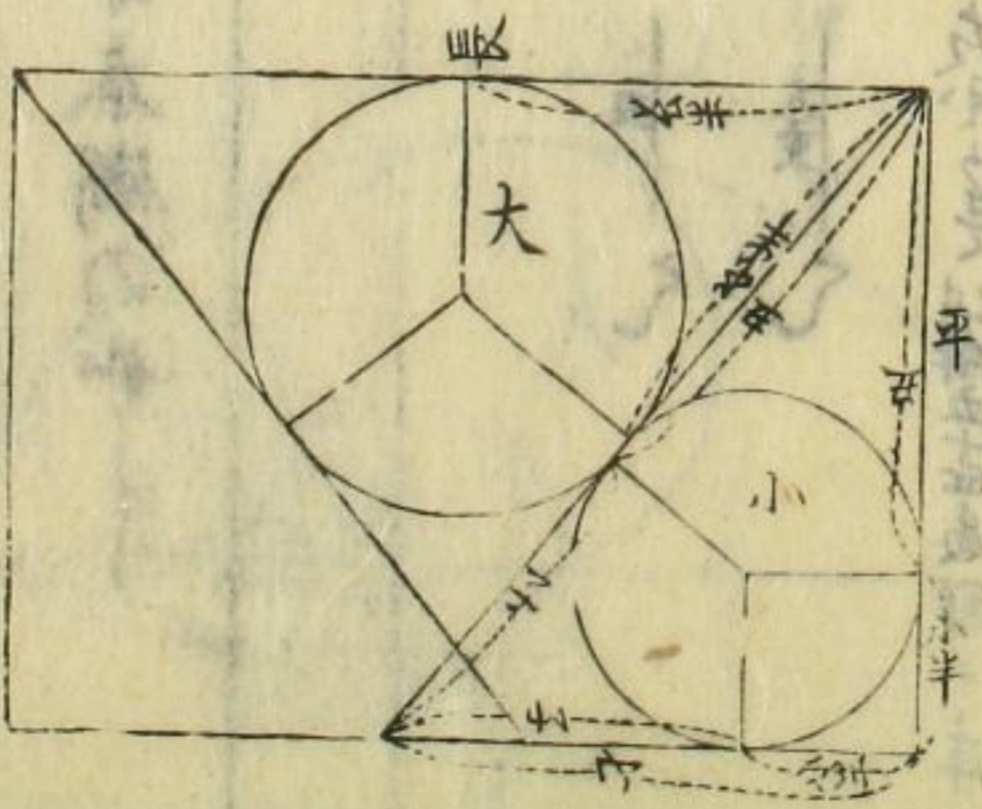
是を掛合せ

大  $\parallel$  小  $\parallel$  大  $\parallel$  小  $\parallel$  大  $\parallel$  小  $\parallel$

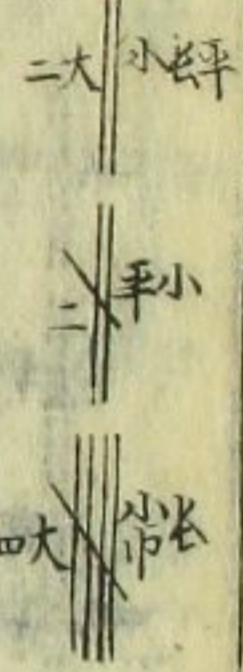
左小赤とお清

卷之五

三十三



遍失減同加



遍小淫と省き又乗除の等数を省大淫と掛

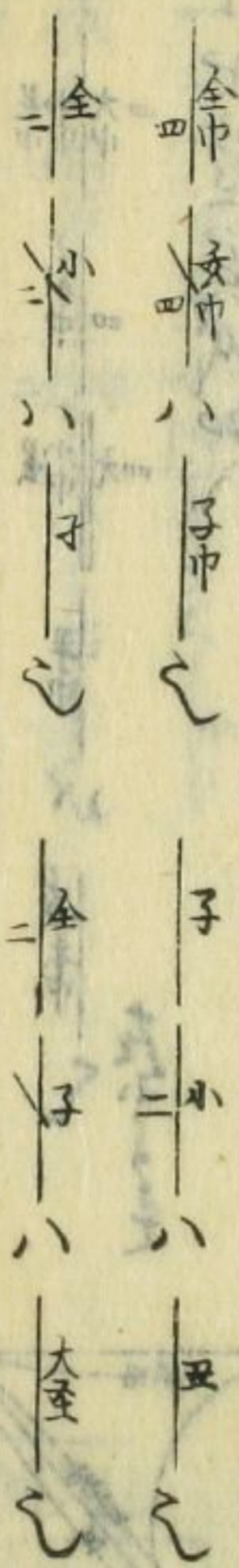
小淫と消式



故小本術の如

### 五十八術解

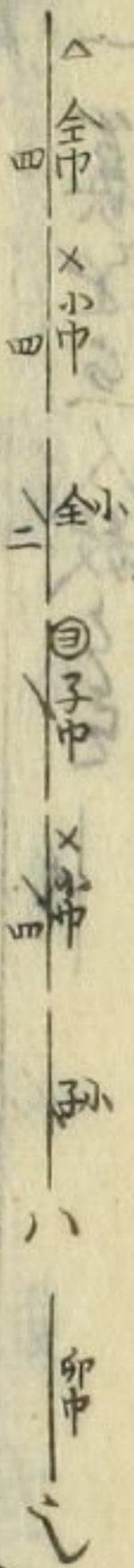
一算と立玄ととと



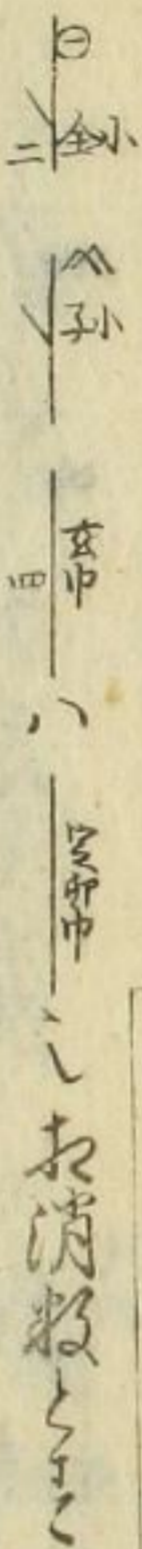
大淫と量小淫と掛

此の解五十八術解の如

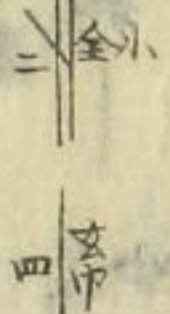
寅昇内丑昇をかん



子昇と爰

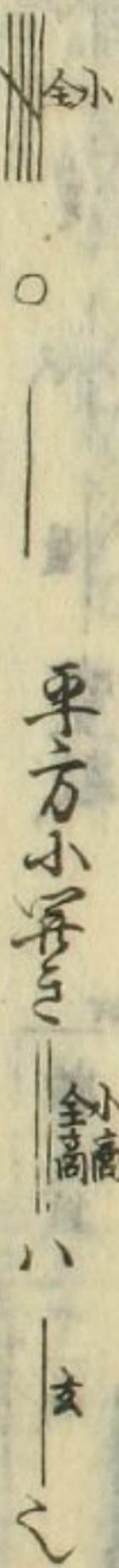


左小糸と相消失減同加



遍四と掛 空数

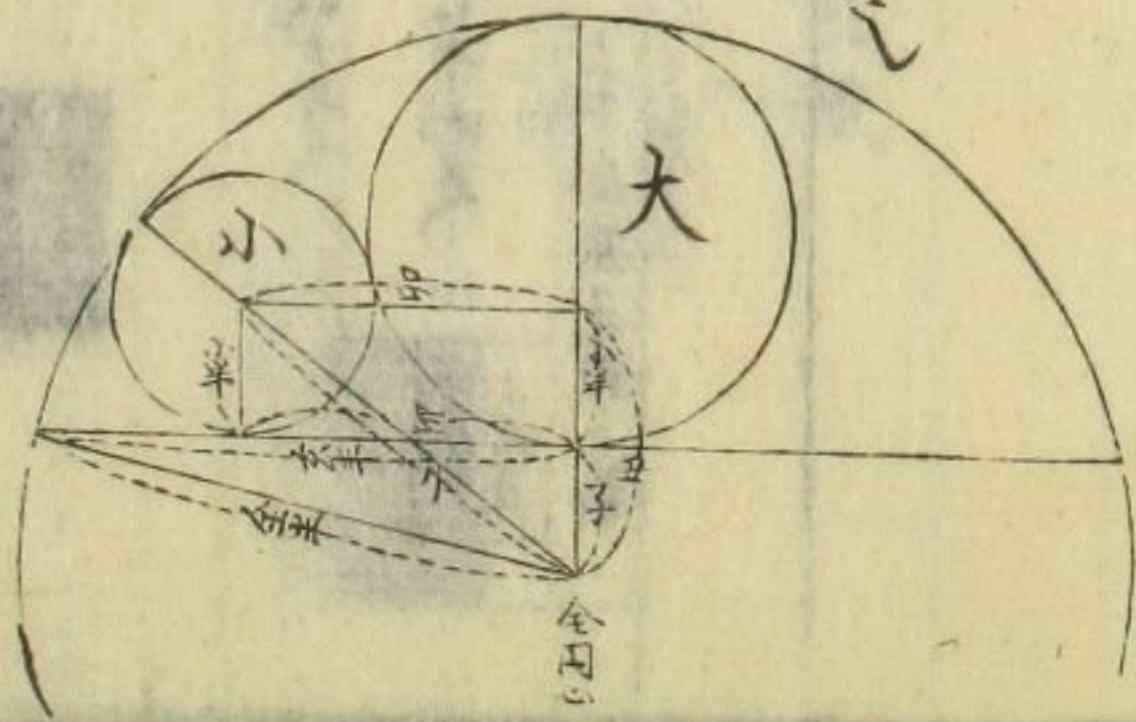
玄と消式



故小本術の如

### 五十九術解

一算と立人数ととと



算術五十八術解

三十三

人数を重只云を掛内不足を減ハ 不足ハ反数ハ 友小ハ 人数を重又云を掛盈を加ハ 盈ハ反数ハ 相消数と云

人数を消る式

不足 只 方より実を別  
盈 又 本例の如

又云解  
惣反数九十二反  
不足十四反

又云解  
人数十人  
付反数七十九反  
上下合惣反数と云

六十術解

一算を立人数と云

只 又 盈 只 本例の如 友小と云

友小と云と相消  
人数を消る式

只 盈 只 方より実を別  
又 盈 又 本例の如

只云  
解  
惣米代銀  
主を賣八百六十目  
盈 三十目  
人数九人

六十一術解

一算を立人数と云

只 不足 只 配分金  
又 不足 又 配分金  
又 不足 又 配分金

人数五十人  
配分金百八十両  
不足 二十両

友小と云と相消

只 又 不足 又 配分金  
又 不足 又 配分金  
又 不足 又 配分金

人数を消す式

$\frac{2}{3}$  只  
 $\frac{1}{2}$  又  
 方より実を割  
 本術の如し

六十二術解

一算を立人数とす

$\frac{1}{2}$  只  
 $\frac{1}{3}$  又  
 $\frac{1}{4}$  又  
 $\frac{1}{5}$  又  
 $\frac{1}{6}$  又  
 $\frac{1}{7}$  又  
 $\frac{1}{8}$  又  
 $\frac{1}{9}$  又  
 $\frac{1}{10}$  又  
 $\frac{1}{11}$  又  
 $\frac{1}{12}$  又  
 $\frac{1}{13}$  又  
 $\frac{1}{14}$  又  
 $\frac{1}{15}$  又  
 $\frac{1}{16}$  又  
 $\frac{1}{17}$  又  
 $\frac{1}{18}$  又  
 $\frac{1}{19}$  又  
 $\frac{1}{20}$  又  
 $\frac{1}{21}$  又  
 $\frac{1}{22}$  又  
 $\frac{1}{23}$  又  
 $\frac{1}{24}$  又  
 $\frac{1}{25}$  又  
 $\frac{1}{26}$  又  
 $\frac{1}{27}$  又  
 $\frac{1}{28}$  又  
 $\frac{1}{29}$  又  
 $\frac{1}{30}$  又  
 $\frac{1}{31}$  又  
 $\frac{1}{32}$  又  
 $\frac{1}{33}$  又  
 $\frac{1}{34}$  又  
 $\frac{1}{35}$  又  
 $\frac{1}{36}$  又  
 $\frac{1}{37}$  又  
 $\frac{1}{38}$  又  
 $\frac{1}{39}$  又  
 $\frac{1}{40}$  又  
 $\frac{1}{41}$  又  
 $\frac{1}{42}$  又  
 $\frac{1}{43}$  又  
 $\frac{1}{44}$  又  
 $\frac{1}{45}$  又  
 $\frac{1}{46}$  又  
 $\frac{1}{47}$  又  
 $\frac{1}{48}$  又  
 $\frac{1}{49}$  又  
 $\frac{1}{50}$  又  
 $\frac{1}{51}$  又  
 $\frac{1}{52}$  又  
 $\frac{1}{53}$  又  
 $\frac{1}{54}$  又  
 $\frac{1}{55}$  又  
 $\frac{1}{56}$  又  
 $\frac{1}{57}$  又  
 $\frac{1}{58}$  又  
 $\frac{1}{59}$  又  
 $\frac{1}{60}$  又  
 $\frac{1}{61}$  又  
 $\frac{1}{62}$  又

六十三術解

一算を立縄長とす

繩長を立只云云を割内只云云と減  
 是を対換して  
 左ふあを相消  
 空数  
 定空数  
 方より実を割  
 本術の如し

六十四術解

一算を立退付日数とす

日数  
 故本術の如し

日数 只 八 牛行日数 之

牛の歩を掛

日数 牛歩

ハ 老及のり 之 左ふよき

返付日数を魚馬の歩を掛

日数 魚馬

ハ 老及のり 之

左ふよきと相消

日数 牛歩

日数 牛歩

空数

返付日数を消る式

日数

日数

方と実を別

本術の如し

### 六十五術解

一算を立老人旅行日数とて 老日数

右日数内列云日数を減じ 老日数

是ふ又云里数を掛 老日数

日数

日数

等行里数

之 左ふよき

老日数

上履底子

是ふ老日数と裏と反掛折半して

老日数

老日数

ハ 上履底子

之

老日数

ハ 下履底子

之

下履責内上履責をぐん

老日数

老日数

老日数

ハ 等行里数

之

左ふよきと相消遍除象をよき

老日数

老日数

老日数

老日数

ハ 空数

老人旅行

日数を消る式

日数

日数

日数

此式遍裏を別

仮ふ老人日数五日の形を  
考して其理を明せ

おろり	十一リ	一日
おろり	十二リ	二日
おろり	十三リ	三日
おろり	十四リ	四日
おろり	十五リ	五日

又 只  
かろり かろり

又  
かろり

又  
かろり

方級是をくらふ

又 只  
かろり かろり  
甲と云

又 甲  
かろり  
定式

実广相乗者 又 かくの如し 位ふらむ

方半者 甲 かくの如し

方半界内位ふらむを減じ余 甲

平方小算者 平高 内方半をぐん 余実と 廉はさぬ

方と 帰除の式を作ら

甲 老人旅の日数を求め式

又 又 方と実を割 平高 甲 八 老人旅日数

内列云とぐん 平高 甲 八 進月日数

故本術の如し

六十六術解

一算を立又進道法と云 又進方

先行町 不及町 初進方 進道法 又進方 初進方 八 進道法

先町 八 進道法 初進方 八 進道法

尤ふと相消遍除象を掛

① 初進方 ② 不及町 ③ 初進方 ④ 先町

空数

惣道法をとり異域して

①ハ 先可 初可 又先可 又先可 ②ハ 初可 又先可

先可 初可 又先可 又先可 定空教

又道道法を以て式

不及可 先可 方より実を割

不及可 故小本術の如し

點竄指南録卷之五終

# 俳諧五七集

全五冊

枇杷園先生ハ一世の推英々々雄名海内ヨリ名々々々  
生涯の俳諧教一らば多き中ヨリ撰史ヨリ風流新奇なる  
數篇をとりて三五部をとりてあつけて五七集と云ふ是  
先生生涯の俳諧ハ凡そにたつたる事あり善き一は其  
世派とのその流をくむくハ勿論他門の人ハ凡そを  
玉をあらば金をらりむめ一詞花言葉ヤ一々その餘の群英の  
句までひろく識はべき重宝トハけ書なり

尾陽書肆

東驛堂欽白

